発行月：令和３年10月　**家族新聞**　第681号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事　髙橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL 0561-51-2878

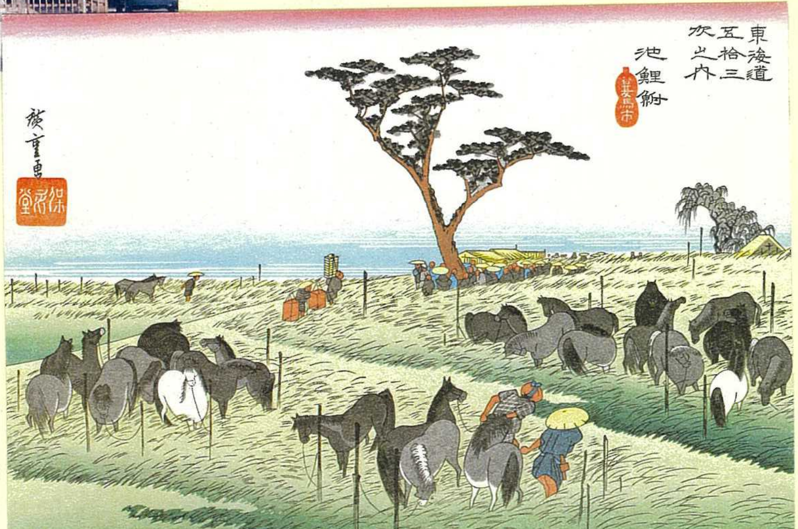
東海道五十三次

東海道第三十九宿

池鯉鮒　ちりゅう

池鯉鮒といえば、在原業平と八橋かきつばたの伝説。東海道の北を走る鎌倉街道沿いに史跡が集中している。できれば、かきつばたの咲く初夏に訪れたい。馬市ののどかな景色は消えてしまったが、松並木が見事である。

知立神社　多宝塔は慈覚大師建立と伝える重要文化財。


東海道五拾三次之内
池鯉鮒
首夏馬市
廣重画

池鯉鮒と知立、なんとなく知立という字のほうが現代的に思えるが、古くはこの字をあてることが多かったようである。ここで知立神社の雨乞いの儀式が行われていた。また、池鯉鮒といえば馬市が有名であった。もともと池鯉鮒は木綿（三河の特産品）の集散地だった関係で、この運搬用の馬の市が立つようになったといわれている。

RYOBI
釣具
小松屋本家
銃砲製

名物蕎麦切、うどん、あんまき

黒餡、白餡をたっぷりはさんで焼いた菓子で、明治二〇年代から親しまれている知立名物。了運寺の西側角、知立神社への参道の入口の小松屋本家が元祖を名乗る。昔ながらの手焼である。「名物大あんまき」

「無量寿寺・八橋かきつばた園

名鉄「三河八幡」はかきつばた名勝の地として古くから知られ、平安の歌人在原業平が同地に立ち寄った際「からころもきつつなれにしつましあればはるばるきぬるたびをしぞおもふ」と「かきつばた」の文字を句頭に詠む。